

# 線形代数学・同演習 B

## 演習問題 5

- 1.<sup>†</sup> (1) 各  $j$  に対して,  $v_j \in \text{Im } T$  であるので, その定義より  $U$  のある要素  $u_{r+j}$  で  $T(u_{r+j}) = v_j$  となるものが存在する. ここで,  $v_1, \dots, v_s$  は基底であるので, どれも  $0_V$  にはならない. つまり,  $T(u_{r+j}) \neq 0_V$  であるので,  $u_{r+j} \notin \text{Ker } T$  である. (2)  $u$  を  $U$  の任意の要素とする. まず,  $T(u)$  を考えると, これは  $\text{Im } T$  に属しているので,  $v_1, \dots, v_s$  の線形結合で表すことができる. つまり  $u = b_1 v_1 + \dots + b_s v_s$  と表すことができる. さて, ここで  $\tilde{u} := u - b_1 u_{r+1} - \dots - b_s u_{r+s}$  という  $U$  の要素を考える. これを  $T$  でうつすと,

$$T(\tilde{u}) = T(u) - (b_1 T(u_{r+1}) + \dots + b_s T(u_{r+s})) = 0_V$$

であるので,  $\tilde{u} \in \text{Ker } T$  となる. つまり,  $\tilde{u} = a_1 u_1 + \dots + a_r u_r$  と書くことができる. 以上より,

$$u = a_1 u_1 + \dots + a_r u_r + b_1 v_1 + \dots + b_s v_s$$

となるので,  $U$  の任意の要素はこれらの線形結合で書ける. (3)  $u' = a_1 u_1 + \dots + a_r u_r + b_1 u_{r+1} + \dots + b_s u_{r+s}$  とし, 方程式  $u' = 0_U$  を考える.  $u_1, \dots, u_r$  は  $\text{Ker } T$  の基底であること, および線形写像は零元を零元にうつすことより,

$$0_V = T(u') = b_1 T(u_{r+1}) + \dots + b_s T(u_{r+s}) = b_1 v_1 + \dots + b_s v_s$$

であるが,  $v_1, \dots, v_s$  は  $\text{Im } T$  の基底なので, これを満たす  $(b_1, \dots, b_s)$  は  $(0, \dots, 0)$  しかありえない. よって  $u' = a_1 u_1 + \dots + a_r u_r$  であり特に  $u' \in \text{Ker } T$  であるが, 今度は  $u_1, \dots, u_r$  が  $\text{Ker } T$  の基底であるため,  $a_1 = \dots = a_r = 0$  を得る. よって,  $u_1, \dots, u_{r+s}$  は線形独立となる.

- 2.<sup>†</sup> いずれの場合も  $T(0_U) = 0_V$  より, 零元を持つことが分かる. また,  $\lambda, \mu \in \mathbb{K}$  としておく. (1)  $v_1, v_2 \in \text{Im } T$  とする. このとき,  $U$  のある要素  $u_1, u_2$  を用いて  $v_1 = T(u_1)$ ,  $v_2 = T(u_2)$  とかけるが,  $T(\lambda u_1 + \mu u_2) = \lambda v_1 + \mu v_2$  であるので,  $\lambda v_1 + \mu v_2 \in \text{Im } T$  となる. よって部分空間となる. (2)  $u, u' \in \text{Ker } T$  とすると,  $T(\lambda u + \mu u') = \lambda T(u) + \mu T(u') = 0_V$  であるので,  $\lambda u + \mu u' \in \text{Ker } T$ , つまり部分空間となる.

---

11月7日分 (凡例: 無印は基本問題, † は特に解いてほしい問題, \* は応用問題)

講義用 HP: <http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/~h-nakashima/lecture/2017LA.html>

3. 与えられた行列を簡約化すればよい．それぞれを簡約化したもの， $T_A$  の退化次元と  $\text{Ker}(T_A)$  の基底および  $T_A$  の階数と  $\text{Im}(T_A)$  の基底は下記の表のようになる．

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \quad (3) \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

		(a)		(b)
(1)	1	$\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$	2	$\begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -5 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -5 \end{pmatrix}$
(2)	1	$\begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$	3	$\begin{pmatrix} -1 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix}$
(3)	2	$\begin{pmatrix} -1 \\ -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$	2	$\begin{pmatrix} 1 \\ -5 \\ -2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$

4. (1)  $\times$  (2)  $\circ$  (3)  $\circ$  (4)  $\circ$

(考え方) 任意の  $x, y \in \mathbb{R}^n$  に対して  $T_k(x+y)$  と  $T_k(x) + T_k(y)$  を考え，この 2 つが一致するかどうかを確認する．同様のことを  $T_k(\lambda x)$  と  $\lambda T_k(x)$  についても確認する．

5. (1)  $h(x) = \lambda p(x) + \mu q(x)$  ( $p, q$  は多項式) とおいて， $T(h(x)) = \lambda T(p(x)) + \mu T(q(x))$  を満たすことを確認すればよい．(2) 退化次元は 1，階数は 3 (3)  $x^2, x, 1$  (または  $-3, -2x + 3, -x^2 + 6x - 3$  でもよい)

(考え方) (1) は全問と同様．(2)，(3) は基底を一つ決め，その基底に関する数ベクトル表示に対して問題 3 と同様に考える．

- 6.<sup>†</sup> (i) 和に関しては問題は生じていない．実際， $X, Y \in M(2, \mathbb{C})$  とすれば，複素共役および転置の性質より

$$\sigma(X+Y) = {}^t\overline{(X+Y)} = {}^t(\overline{X} + \overline{Y}) = {}^t\overline{X} + {}^t\overline{Y} = \sigma(X) + \sigma(Y).$$

一方，複素数  $\lambda$  に対して，スカラー倍を考えると

$$\sigma(\lambda X) = {}^t\overline{(\lambda X)} = {}^t(\overline{\lambda} \overline{X}) = \overline{\lambda} {}^t\overline{X} = \overline{\lambda} \sigma(X).$$

よって  $\lambda \in \mathbb{R}$  ならば  $\sigma(\lambda X) = \lambda \sigma(X)$  を満たすので  $\mathbb{R}$  上線形になるが，複素数のときは  $\sigma(\lambda X) \neq \lambda \sigma(X)$  であるので  $\mathbb{C}$  上では線形にならない．

- (ii)  $X, Y \in W$ ， $\lambda, \mu \in \mathbb{R}$  のとき  $\lambda X + \mu Y \in W$  を示せばよい (零行列を含むことは明らか)．(i) で計算したように  $\lambda, \mu \in \mathbb{R}$  より

$$\sigma(\lambda X + \mu Y) = \sigma(\lambda X) + \sigma(\mu Y) = \lambda \sigma(X) + \mu \sigma(Y) = \lambda X + \mu Y$$

となるので,  $\lambda X + \mu Y \in W$  である .

(iii)  $X = \begin{pmatrix} x & y \\ z & w \end{pmatrix} \in W$  とする .  $x, y, z, w \in \mathbb{C}$  である .  $\sigma(X) = {}^t \overline{X} = \begin{pmatrix} \overline{x} & \overline{z} \\ \overline{y} & \overline{w} \end{pmatrix}$  なので,  $\sigma(X) = X$  とすれば

$$x = \overline{x}, \quad y = \overline{z}, \quad z = \overline{y}, \quad w = \overline{w}$$

を満たさなければならない . よって  $x, w \in \mathbb{R}$  および  $z = \overline{y}$  なので,  $y = a + bi$  とすれば  $X \in W$  は

$$X = \begin{pmatrix} x & a + bi \\ a - bi & w \end{pmatrix} \quad (a, b, x, w \in \mathbb{R})$$

とかける . よって次元 (=パラメータの数) は 4 で, 基底として

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 0 & i \\ -i & 0 \end{pmatrix}$$

がとれる .